

# 記憶の場

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授 **伊藤 毅**

## ケネディとダラス

2007年10月26日、没後40年になるチェ・ゲバラ(Che Guevara)の遺髪がオークションにかけられた。ゲバラはいうまでもなくキューバ革命の立役者で、1967年ボリビアで処刑されたが、アメリカ中央情報局(CIA)元工作員の亡命キューバ人男性が密かに頭髪を切り取り保管していたという。このオークションの場所がテキサス州ダラスだった。入札したのは同じテキサス州ヒューストンの書店経営者で、落札価格は10万ドルに及んだ。

ダラスといえばケネディ大統領が暗殺された場所知られるが、キューバ危機という難局を経験したケネディとキューバ革命の英雄ゲバラ、現代史を代表するふたりの人物がダラスという場を介してつながったような奇妙な歴史的因縁を感じる。

第35代大統領ジョン・F・ケネディは1963年11月22日、



写真1 ジョン・F・ケネディ・メモリアル



写真2 テキサス教科書倉庫

現地時間午後12時30分、ダラスのディーリー・プラザ(Dealey Plaza)でリムジンカーに乗ってパレード中、暗殺された。この時の映像は衛星放送を通じて世界中に配信され、大きな衝撃を与えた。

ケネディ暗殺後、1970年に完成したジョン・F・ケネディ・メモリアル(John F. Kennedy Memorial)は、フィリップ・ジョンソン(Philip Johnson)設計による記念碑である(写真-1)。暗殺現場からおよそ200メートル離れたメモリアル広場にある。真っ白なキャスト・コンクリートの壁が立ち上がり、各面の中央にスリットが入る。壁は地上からわずかに持ち上げられ、天空に開放されている。50フィート(約165メートル)四方の壁の内側にはケネディの名を刻んだ黒御影石が据えられるのみである。このミニマルな記念碑はケネディの死への過度な感情を抑え、静謐な空間のなかでケネディという傑出した人物を永く記憶にとどめるためにつくられた。竣工後30年を経た2000年、傷みや老朽化が進んだこのモニュメントの修復プロジェクトが行われ、往時の端正な姿を取り戻している。



写真-3 シックス・フロアー・ミュージアム

ケネディ暗殺にまつわる建築はもうひとつある。暗殺犯とされるリー・ハーヴェイ・オズワルド( Lee Harvey Oswald )がパレード中のケネディを狙撃したディーリー・プラザに面したテキサス教科書倉庫( Texas School Book Depository )である( 写真-2 )。オズワルドは事件1ヶ月前にここの従業員として職を得、建物の6階の窓からパレード中のケネディを銃撃した。1901年に建てられた教科書倉庫の建物はその後ダラス市が買い取り、リノベーションが行われた。1階から5階までは行政用のスペースとして利用し、6階はシックス・フロアー・



写真-4 ダラス市庁舎

ミュージアム( The Six Floor Museum )として、一連の暗殺事件に関する資料を展示している( 写真-3 )。

### I.M.ペイの建築博物館都市

ケネディ暗殺事件はダラス市の市庁舎( Dallas City Hall )の建築にも影響を与えたようだ。新市庁舎の計画はケネディ暗殺後の1960年代半ばにダラス市が打ち出したマスタープラン「ダラスの目標( Goals for Dallas )」の一環としてスタートした。あの忌まわしい事



写真-5 市庁舎からみたダウンタウンの景観



写真-6(上)メイヤーソン・シンフォニー・センター  
写真-7(下)メイヤーソン・シンフォニー・センター内部



写真-8 ファウンテン・ブレース



件を乗り越え、夢に満ちあふれたダラスの未来を象徴するような建築が求められた。設計者I.M.ペイ(I.M.Pei)は、ダラス市民の期待を一身に受けて、斬新かつ劇的なフォルムの市庁舎を提案し、1977年このダラスを代表する建築が完成する。

市庁舎北側のダウンタウンに向かって34度で迫り出すキャンティレバーの大胆なファサードがペイの構想したプログラムのすべてを物語っている(写真-4)。

ペイは次第にスカイスクレーパーが建ちはじめようとしているダウンタウンと市庁舎が別物でなく、調和的な対話が可能なようにこの特異なファサードを設計した。市庁舎の迫り出す先には、広場を挟んでダウンタウンの賑やかな光景が広がっている(写真-5)。

壁面をキャンティレバーにすることで、市庁舎の足下

は市民に公開された広場となり、通常の垂直方向の壁面とは異なり広場から見上げると各階の表情がよくみえる。このようにしてダラス市民が自慢する、まったく新しいタイプの市庁舎が実現したのである。

ダラスのアート・ディストリクトに1989年竣工したメイヤーソン・シンフォニー・センター(Morton H. Meyerson Symphony Center)もペイの代表的な作品のひとつである(写真-6・7)。このコンサート・ホールは世界的にみてもトップクラスの規模と設備を誇るもので、ダラスが将来国際的な文化センターになることを目指して建設された。

クライアントのモートン・H・メイヤーソンは有名なテキサスの石油王であり、ペイにとってはじめてのコンサート・ホール設計の理想に近づけるために建設資金を惜

しなかったという。ふたつの幾何学的なヴォリュームが組み合わされたペイ独特の造形をみることができる。

ダラスにはペイの作品が多い。1977年の市庁舎以降、79年のワン・ダラス・センター(One Dallas Center)、83年竣工のアルコ・タワー(ARCO Tower)、86年のファウンテン・ブレース(Fountain Place)、そして89年の上記のコンサート・ホール、99年のホテル・ソフィテル・ダラス(Hotel Sofitel Dallas)など、まるでペイの建築博物館のようだ。ダウンタウンの中核業務地区の再開発でつくられた60層のファウンテン・ブレースは、光り輝くプリズムを想起させる鋭いシルエットのオフィスで、地上レベルに広がる気持ちのいい泉水庭園とともにダラスの名所のひとつに数えられている(写真-8)。

## 石油の町

ところで、ダラスは先のメイヤーソンに代表されるように、石油で財をなした大企業家が多いことでもよく知られている。全米で13年間超人気テレビ・ドラマとして放映された「ダラス」は、無一文から身を起こし、石油で成功し、牧場も兼ねた豪邸「サウスフォーク」に住むテキサスの大富豪ユーイング一族の物語であった。現大統領ジョージ・W・ブッシュ(George W. Bush)元テキサス州知事をつとめる以前、原油や天然ガスの発掘会社アーブスト・エナジー(Arbusto Energy)社を興した経歴があり、石油業界との癒着が取り沙汰されたこともあった。



オイル・マネー、カーボーイに象徴されるダラスの政治風土は保守的であって、急進的な改革を好まない。宗教的にはプロテスタントが主流を占める。ケネディは大統領選挙の時、テキサス州ではわずかに対立候補のジョンソンを上回る程度しか票が得られず、ダラスでは共和党に敗北したために、1964年の再選に向けてダラス遊説を決意したらしい。ケネディの遊説に反対するグループも少なくなかった。こうしたダラスは誰によって見いだされたのだろうか。

ダラスの歴史は、1841年ジョン・ニーリー・ブライアン(John Neely Bryan)という貿易商人によって拓かれた。ブライアンはこのあたり一帯の貿易拠点にふさわしい場所を探していたが、テキサスの動脈であるトリニティ川(The Trinity)の渡航地点であり、テキサスの北と南を結ぶプレストン(Preston)街道に近い絶好の地





写真-9 ファウンダーズ・プラザ

ノラマ写真は、こうした勃興しつつある都市の勢いをよくあらわしている(写真-10・11)。

そして1930年、ダラスの中心部から160キロメートル東の土地に大規模な石油の油田が発見された。この天然資源は数多くの石油王を生み、1950年代から60年代にかけてダラスは全米第3のテクノロジー・センターの地位を占めるまでになる。ケネディ大統領の暗殺事件は、こうした上昇気運で盛り上がるさなかに起こったのである。

### 記憶の場

ダラスはわずか100年程度の短い歴史のなかで、急速な都市化を遂げた新興都市である。ケネディ大統領の事件がなければ、テキサスのごく普通の大都市のひとつに過ぎなかったかもしれない。しかしこの事件はこの地で起き、そして結果としてダラスという町にある種の陰影を与えることになった。

悲惨な出来事の記憶は場所に刻まれ、そこにたつ建築に一定の影響を及ぼした。フィリップ・ジョンソンの記念碑やI.M.ペイの市庁舎は、こうした場の文脈なしには考えられないし、ダウントウンの活況とアート・ディストリクトのコントラストもまた、ダラスの歴史の流れのなかで必然的に形成されたものである。文化に対する思い切った投資は、ダラスが単なる企業家の町に安住できなかったことを示している。

都市にとって記憶ほど本質的なものはない。

を発見する。ブライアンは先住のインディアンと契約を済ませたうえで、この地に単独で植民する。現在、ファウンダーズ・プラザ(Founders Plaza創業者広場)に粗末なログハウスが1棟置かれているが、これはブライアンが最初に建てた住家を復元したものである(写真-9)。

ブライアンは広く移住者を募ったが、なかなか人が集まらず、しばらくの間は郵便局長、商店主など一人二役、三役をこなしながら、都市建設を進めた。彼の住宅は法廷を兼ねていたという。やがて医者や弁護士などの専門家がこの町に移り住むようになり、鉄道や道路などのインフラも整備され、19世紀後半には急激な都市化が進行した。

20世紀初頭にはダラスはアメリカ南西部屈指の商業都市に成長し、とりわけ木綿・小麦の貿易では世界的な市場を形成する。1910年に撮影されたダラスのパ



写真-10・11 1910年/ダラス・パノラマ写真